

I. 南区プランについて

1. 南区プランとは

都市計画マスタープラン南区プラン（以下、「南区プラン」という。）は、おおむね 20 年後の南区の将来像を描くとともに、その将来像を実現するためのまちづくりの方針を示すものです。南区は、地域での支えあい、助け合いが行われる庶民的で人情味あるまちです。また、自治会・町内会活動、ボランティア活動、市民活動なども盛んに行われています。こうした人々の生活が営まれるまちの道路や公園、緑地、河川、住宅、店舗などの環境を整えていくため、区民や事業者と行政が協働*してまちづくりを進め、豊かな生活を維持し、魅力をさらに高めていくことが必要です。まちづくりは、一朝一夕で実現できるものではなく、今後、区民、事業者及び行政の息の長い取組が求められます。この南区プランが、具体的なまちづくりを進める関係者に広く共有され、まちの将来像を実現していく手掛かりとして活用されることを策定のねらいとしています。

2. 改定の背景（改定の流れ）

南区プランは、アンケート、検討懇談会や地区懇談会等による意見募集をもとに 2004（平成 16）年 4 月に策定され、その後 10 年以上が経過しました。この間、「横浜市基本構想（長期ビジョン）*」が 2006（平成 18）年に策定され、それに伴い関連する分野別計画の策定・改定も進みました。また、南区プランの前提である「横浜市都市計画マスタープラン全体構想」（以下、「全体構想」という。）が、今後の本格的な人口減少社会の到来予測等の社会経済状況の変化に合わせ、2013（平成 25）年に改定されました。

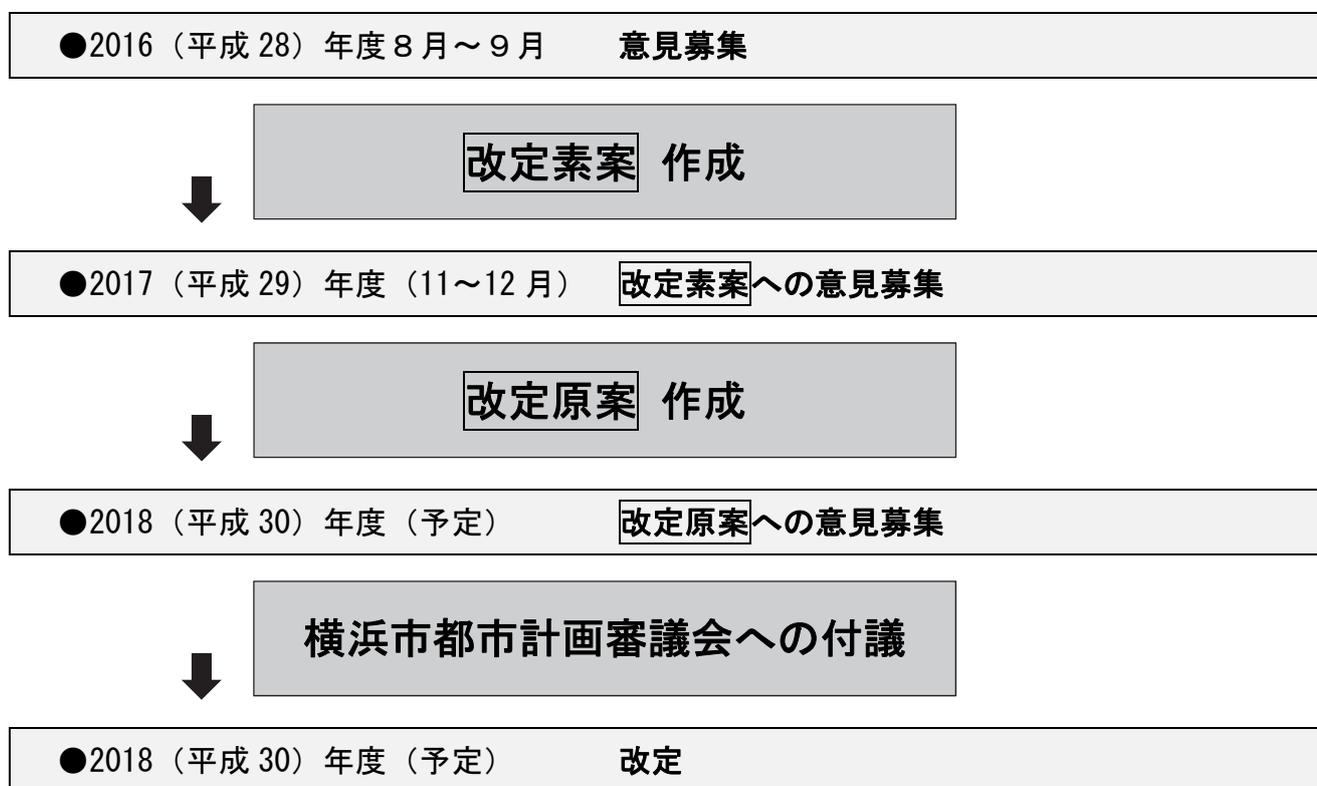
南区においても 2010（平成 22）年頃からやや人口減少の傾向がみられるようになり、総人口に占める老年人口の割合も 2015（平成 27）年には 25%を超えるなど、高齢化も進展しています。一方、南区プラン策定以降、地区センター*や地域ケアプラザ*、公園などの整備が進捗したほか、区民と協働したまちづくりの仕組みが整うなど、まちづくりを取り巻く状況も変化しています。これらの状況変化を踏まえ、将来に向けたまちづくりの方針を次の視点から見直し、南区プランを改定します。

- 人口減少社会の到来と超高齢社会*の到来を踏まえた方針の改定
- 上位計画、関連計画や全体構想の策定・改定に合わせた構成の再編と方針の整合
- 地域課題の変化やまちづくりの進捗に合わせた方針の時点修正

南区プランは2004(平成16)年の策定時、区民とともに考え、話し合っていくものとし、プランの確定に至る様々な段階で、区民参加を得ながら検討が進められました。このように区民との協働*により検討された当初の南区プランのまちづくりの目標や方針を尊重し、本改定ではその骨子を継承しています。

南区プラン改定にあたっては、2016(平成28)年にまちづくりへの御意見をいただきました。このたびの改定素案は、いただいた御意見を参考として作成したものです。今後の予定は以下のとおりです。

○南区プラン改定の流れ

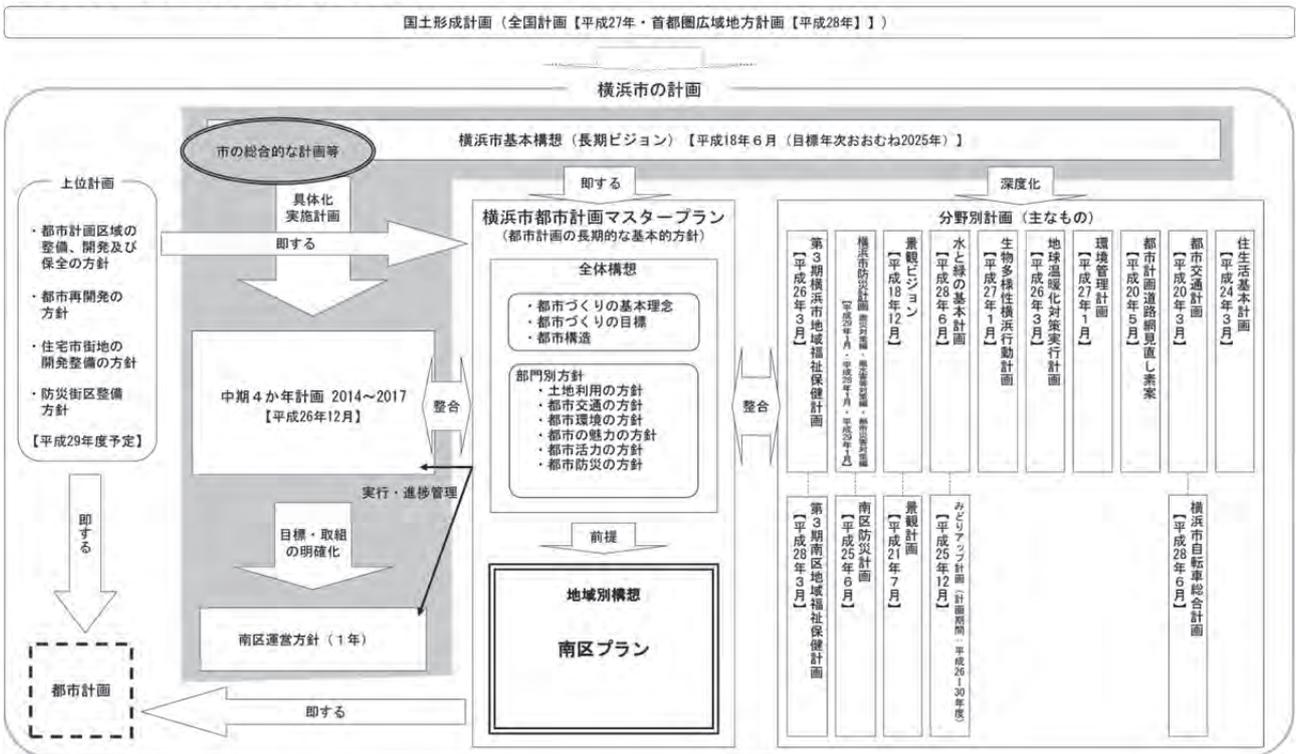


3. 位置づけと役割

「まちづくり」は区民の生活全般に関わって、自分たちのまちをより良いものにしていくための区民、事業者及び行政の取組です。また、「都市計画」とは、こうしたまちづくりが目指す、まちのあり方を具体化するために土地利用を規制・誘導することや、道路や公園などの基盤施設としてまちづくりに必要な事項を定めることにより、都市の健全な発展と秩序ある整備を図るものです。

横浜市では、都市計画法第18条の2に規定された市の都市計画に関する長期的な基本の方針として横浜市都市計画マスタープランを定めています。横浜市都市計画マスタープランは、上位計画である「横浜市基本構想（長期ビジョン）」*及び「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針*」等に即するとともに、各分野別計画と整合を図っており、「全体構想」と「地域別構想」により構成されます。南区プランはこのうちの「地域別構想」に該当し、望ましい南区の将来像を描くとともに、それを実現するためのまちづくりの基本的な方針を定めています。

横浜市都市計画マスタープランと関連計画との関係



4. 計画期間

2018（平成30年）度から2038（平成50）年度の20年間を計画期間の目安とします。なお、計画策定後の社会情勢の変化によっては、必要に応じて計画見直しの検討を行います。